

2023年1月号 vol. 74 (2023年1月1日発行)

# せんしゆん



ISO9001:2015認証取得  
日本医療機能評価(3rdG:Ver.2.0)認定病院

<http://www.senshunkai.or.jp/>

千春会

検索

発行責任者：菊地 孝三



ほうよ たいしゃ じょうなんぐら  
方除けの大社 城南宮 しだれ梅と椿(京都市伏見区)

## 理 念 (3つの使命)

1. 患者・利用者の自立を支援し、良質な医療・看護・介護を提供する。
2. 仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。
3. 事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。

## 基本方針 (5つの志)

1. 優しい心を基本とする。
2. 医療と介護の相互充実を基本とする。
3. 疾病・障害を一体的に把握し、総合的な医療・介護サービスの提供を基本とする。
4. 良好な療養環境の維持並びに向上を目指す看護・介護を基本とする。
5. 互いの立場を理解し、尊重しあう職場づくりを基本とする。

医療法人社団 千春会

# 新年のご挨拶



千春会病院 院長 藤原 仁史

新年明けましておめでとうございます。

感染対策を講じながらの医療の提供が今や「日常」となって、3年が経過しました。世界各国ではすでに「過去形」で語られている COVID-19 への対策は、日本ではまだまだ「現在進行形」です。我々千春会は、地域への貢献を第一に考えて、スタッフの安全を確保しつつ今年も努力したいと考えております。

千春会では「地域のかかりつけ病院」として、小規模ながら内科・整形外科・透析医療・在宅医療等を中心に医療を提供して参りました。

昨春4月、千春会の新しい試みとして、『股関節再建センター』を新設しました。股関節治療のスペシャリストを迎え、バイオクリーン仕様の手術室を新規造設して、9月からTHA（人工股関節置換術）を開始しました。既に数か月の手術待ち状態であるため、各部門の最大限の協力を得ながら着実に実績を伸ばし、これまでより少し広域な地域貢献を行って参ります。また本年4月からは、MRIも新たに稼働させる準備をソフト・ハード面で整えております。

さて、医療の質の改善のため、2007年の初回認定以降4回目の更新審査となった病院機能評価ですが、病院・クリニック・介護系事業所も含めた審査(3rdG:Ver2.0)を受審し、8月に再認定を受けることができました。今回の審査では、①「栄養管理・栄養指導」、②「安全確保のための身体抑制」、③「褥瘡予防」の3項目において、他の病院の模範となるとされる『S評価』をいただくことができました。具体的には、①入院から在宅へと継続した栄養指導を行い、嚥下食選択のスクリーニング食等の独自の工夫した食事を数々提供、②2019年に身体抑制廃止委員会を発足させ、身体抑制率を3%までに低下させたこと、

③新規褥瘡発生ゼロを3年間病棟にて継続していること等が、高く評価されました。これは、医療の質を真剣に改善しようとする職員全員の努力が評価されたものと自負しており、今後の取り組みへの励みとしていきたいと考えております。

地域での当院の役割を考える中で、菊地孝三理事長の掲げる「医療と介護の融合」のキーワードをもとに、千春会の様々な機能を十分発揮させ、地域包括ケアシステム構築の一助となるべく努力して参りました。関連のハイパーサーミアクリニックは設立から12年が経過、吹田市のたなのファミリークリニックは3年目に入り、各々がその求められる役割をその地において果たしております。

一番重要となる「ヒト(人)」の面では、病棟看護師はいわゆる7対1を更に超えた6対1、5対1配置とするよう理事長より指示されており、各コメディカルも数的にも質的にも手厚いものとして参りました。歯科衛生士の院内、介護事業所内での口腔ケアの活動は、すでに十数年の継続実績です。常勤の臨床心理士は現在4名配置しており、精神科を有さない一般病院での病棟・外来・在宅の患者さんへの介入によって、患者さん・スタッフ双方にとって大きな役割を果たしております。

更に4月以降、医局医師も内科系を中心に充実させる方向です。腎臓内科・循環器内科・消化器内科の各種専門医のドクターが新たな仲間として加わる予定であり、地域の医療機関とも協力して、コロナ後も見据えつつ、これからもより良い医療の提供を行っていく所存です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 埼玉県立大学理事長・慶應義塾大学大学院名誉教授 田中 滋 先生

テーマ：地域包括ケアシステムの進化・広がり・深まり — 共生社会に向けて —

千春会では、毎年、日本の医療・介護政策へのご提言や研究で名高い、埼玉県立大学理事長・慶應義塾大学名誉教授の田中 滋先生にご講演をいただいています。今回は、中小路健吾長岡京市長はじめ、松本均副市長、健康福祉部能勢部長、乙訓保健所佐藤所長、長岡京市川村参事などが参加されました。

今後の医療、介護、福祉をどのように想定し、舵取りするか、長岡京市の政策にも大きく関わる課題だけに関心の高い内容となりました。

まず、地域包括ケアシステムの定義については「住み慣れた地域で自らも主体的な地域生活の参加者として、尊厳を保ちつつ安心して暮らし続けるためのしくみ」とされ、どのように進展してきたか、構築の歴史、ニーズの広がり、医療と介護の関係性等をご説明いただきました。

進展における 3 つの方向として「コアの進化」「広がり」「深まり」と示されました。

「進化」では、医療と介護の関係変化もあり、これまで救急医療で命を助け、治すだけのニーズに応えてきたが、今、日本人は高齢化し、病気を抱えながら自宅に戻らねばならず、生活の継続性を支える医療、退院後の生活復帰を意識した医療が求められ、医療と介護の連携が必要となることから、医療・介護の専門職が行う専門的な協働、事業所における連携の必要性を示されました。その上で、「人生の幸せとは、親しい人と会話をし、食事をし、笑い合う。子や孫や花の世話をすることなどであって、医療や介護を受けることが人生の上位目的ではない。」とお話しされ、人にとって、医療や介護は必要不可欠だが、人生の上位目的ではないことを重ねて強調されました。

「広がり」では、現在、外来患者数は減少し、在宅医療患者数が増加しているため、医療の 3 本柱は、入院、外来、在宅となり、自宅医療のニーズが広がっていること。しかし、入院中は提供できた食事、入浴、排せつなどのサービスが、在宅では提供困難となる状況も含め、自活力(家事力)がなくなってくることで、様々な生活の支援が必要となる。それは、医療・介護だけでなく、行政の責任と認識

しなければならないと社会的複合課題の早期発見と福祉的対処の重要性をご教示いただきました。

「深まり」では、長寿時代においては、医療・介護業界の役割だけでなく、行政はじめ、商業、交通業など各セクターの役割と連携による「地域デザイン」が必要であり、場の創出やグループワーク、勉強会等の実施により、各セクターの役割提案を得るなど、行政、地域による、生活の広がりへの創出が必要であること。経済格差、階層格差の拡大によって生じる子どもたちへの影響も含め、社会的包摂として社会の分断防止や困難事例を作らないコミュニティワークの重要性を語られ、「放置していると取り残されてしまう人を作らない共生社会」「包括的で連続的で切れ目ない共生社会」を意識していかなければならないと示されました。



最後に、共生社会の在り方として「排除ではなく、多様性を認め合い、緩やかなつながりで、生まれてから亡くなるまで多元的に参加できる社会を作っていくことが重要である」と方向性を示唆して締めくくられました。

講演後、菊地副理事長から「はっとしたのは、医療や介護を受けるために生きているのではない、それが目的ではない、という言葉でした。我々は、どうしても医療や介護を提供する事が目的となりがちですが、実は、その奥にある人々の生活、豊かな目標を達成していただくためのサポートだということであらためて認識しました。医療・介護は、地域包括ケアシステム、地域デザインと、一つの地域を支える地域活性化の重要な役割を担わせていただいていると確信しました。」と感想が述べられました。

進むべき方向性を確認しつつ、これからのまちづくり、地域社会への関り方など「それぞれの立場で取り組むべき今後」へとつながる有意義な講演会となりました。

千春会の持てる力をしっかりと地域の皆さまに提供できるよう、学びを力に生かしてまいります。

## 医療機能評価 3rdG : Ver2.0 更新認定



### 3つの取り組みが最高評価「S評価」となりました

更新審査にて「医療機能評価 3rdG : Ver.2.0」の認定がなされ、認定証が交付されました。

今回の審査では、3つの取り組みが最高評価「S」となりました。

褥瘡の院内発生を防ぐべく「褥瘡ゼロを目指した取り組み」では、数年にわたり、発生0を継続し、医師、看護師、セラピスト、薬剤師、管理栄養士の他職種連携で、チーム一丸となって取り組んで来ました。

栄養科での「訪問栄養指導」の取り組みは、前回に引き続いての「S評価」となり、「身体拘束廃止」への取り組みもできる限り身体拘束を行わない努力が、新たに「S評価」となりました。他部署での取り組みも、日々の努力を高く評価していただいた認定となりました。これからも、さらに良質を目指し、職員一丸で努めてまいります。



## バイオクリーン手術室 稼働中

9月に新設された「空気清浄度最高クラス100のバイオクリーン手術室」では、微粒子や細菌を拡散させない充実した環境下で、股関節の手術や整形外科の各種手術が実施されています。現在、股関節の痛みでお悩みの方も多く、人工股関節置換術の予約も増えています。高性能の手術室を十分に活用し、地域に貢献してまいります。

また、股関節再建手術に不安をお持ちの方、手術室の中、手術はどのようなものか知りたい方に向け、股関節再建センター長 藤田 裕先生による説明動画の作成なども進んでおり、様々な形で、広く皆さまに知っていただけるようにと、無料の動画配信を2月上旬にも予定しております。ぜひ、ご視聴下さい。



木目調が落ち着いた手術室の扉前



動画撮影中の藤田 裕 センター長

すでに、人工股関節手術を受けた方で状態の悪い方もご相談できます。人工股関節手術についての内容や痛みの悩みなど、小さなことでも大丈夫です。お気軽にご連絡下さい。

千春会病院：担当(川原)  
075-954-2175 (代表)

## デイケア利用者さまが社会復帰。 デイケアで勤務中

超強化型介護老人保健施設 春風

利用者さまの就労支援をしています！

春風は、超強化型老健 100 床とデイケア定員 200 名を有しており、介護職、医師、看護師、リハビリセラピスト、管理栄養士など多職種が関わり、高い在宅復帰率を継続しています。デイケアは終日の「そよ風」、午前・午後の短時間「あお空」、認知症対応「せせらぎ」と、機能やニーズに合わせて利用できます。

春風では、利用者さまがやりがいを見つけて、自信を持っていただくために「デイケア卒業（自立）」に向け、さらに「社会復帰」を目指して、職員が利用者さまと心一つに取り組んでいます。

今回は、週2回「デイケア」に通いながら、2回はスタッフとして頑張る、幡 和夫さん（70歳）にお話を伺いました。

幡さんは、2010年に心筋梗塞、2019年に脳梗塞、脳出血で急性期病院へ入院され、半身不随から何とか歩行可能な状態へ。「春風はリハビリが充実していますよ」との担当ケアマネジャーの言葉で2020年1月体験に来所。「家では出来ないトレーニングマシンが多く、窓が広く明るい雰囲気良くて、すぐ千春会のデイケアに決定しました。」と幡さん。

「デイケアあお空」でリハビリしながら幡さ

んは、「介護職員さんがいつも忙しそうなので、自分でもいろいろできることを探して、お手伝いをするようになりました。」と。

そんな時「就労としてのデイケア勤務はどうか」とフロア責任者の並木副主任の声掛けもあり、やりがいを見つけた幡さんは就労に向け、本年4月～6月の研修、面談を経て、9月からは、スタッフとして、月曜・木曜10時～13時に勤務されています。さらに水曜・金曜はデイケア利用者としてトレーニングにも。「スタッフの方も良くして下さい、いろいろな方と触れ合えます。半年に1回のリハビリの評価は、筋力アップしていて、春風のリハビリは、体力維持にとっても良いと思います。」「リハビリをしながら、勤務している姿を見てもらい、他の人にも元気が

なって欲しいと思います。」と、生きがいを見つけて、リハビリも就労も頑張る幡さんは、本当に生き活きされて



物品を倉庫に運ぶのも車イスを活用するので安心

## 医療と介護の連携にて

### 介護老人保健施設 桃山にて コロナ患者さんを受け入れ

伏見区桃山にある老健桃山では、このコロナ禍で受け入れ先に困られたコロナ陽性の利用者さまを受け入れ、病院と変わらぬ機能と手厚い看護・介護に努めました。

乙訓地域の介護複合施設でコロナ陽性になられた利用者さま。あいにく、千春会病院のコロナ対応病室は満床で、受け入れ先に困っていたところ、京都市伏見区の老健桃山にて受け入れすることになりました。陰圧ルームを備えているため、まずは、そちらに入所していただき、看護師、施設の介護スタッフを中心にその対応にあたりました。コロナ対応に備えてきた職員は、慌てることなく、ゼビュディの点滴や治療薬ラゲブリオの投与、酸素吸入、及びステロイドの投与や点滴も開始し、重症化リスクが高く、経過観察の必要な利用者さまのケアを行いました。千春会病院の院長はじめとする医師や看護師との連携をしっかりと取りながら、細やかに24時間の経過観察を行い、まるで病院のような手厚い看護・介護にて、その後、利用者さまは重症化することなく回復されました。

介護施設でのコロナ陽性患者さんのケアは非常に対応が難しい中、桃山は医療と介護の密なる連携で、しっかり役割を果たすことができました。これからも地域の皆さまを、しっかり支えてまいります。

## 長岡京市西地域包括支援センター要望にて 地域の福祉関係者の皆さんへ講演

小規模多機能型居宅介護 のどか  
猪飼 和也 副主任(ケアマネージャー)

訪問介護センター 西山天王山  
森本 万貴 副主任

西地域包括支援センター主催の「ケア・カフェ」は、福祉に関わる関係者がつながることを目的に毎年、開催されてきました。今年は、支援センターからの要望を受け、小規模多機能型居宅介護 のどかのケアマネージャーである猪飼副主任と訪問介護センター 西山天王山 森本副主任が講演しました。

小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型居宅介護など、地域密着型の介護サービスについて、福祉関係者でもなかなか理解されていない点もあるようだとい、じっくりと説明させていただきました。知っているようで、知らないサービス内容、千春会だからこそその連携したサービスなども併せて講演させて



講演中の猪飼副主任(奥)  
森本副主任(前)

せていただき、様々に意見交換させて

いただきました。「こんなケースは受け入れできますか？」との問いや「不明だった点が理解できた」「適切なサービスを紹介したい」といった声もあり、良い機会となりました。

これからも、地域の介護事業所、関係者としっかりと連携を取りながら、地域で支える介護サービスに努めてまいります。



## ニュース

### 医療的ケア障がい者の方を 介護老人保健施設 春風 で受け入れ開始

介護老人保健施設 春風では、「医療的ケアを必要とされる障がい者の方」の短期入所受け入れを開始しています。乙訓地域では、医療的ケアの対応ができる事業所がないことから、乙訓圏域障がい者自立支援協議会が受け入れ先を探し、複数の病院・施設に打診をされていましたが、この度、千春会が要請を受ける形で、老健春風での対応をはじめることとなりました。

医療的ケアは、吸引や経管栄養の注入など生活に必要な医療的な援助を指しています。通常、ご自宅においてはご家族さま、福祉施設では職員が担います。

千春会病院はもとより、介護施設においても、利用されている高齢者の方へ医療的ケアを実施してきた実績があり、今回の要請もすんなりとお受けすることが出来ました。

今回は、初めての受け入れとして、京都新聞の取材が入り、掲載されました。利用された方は、「受け入れ先がなく不安でしたが、これから安心できます」と安堵されたようです。「ご家族からの情報を介護職や看護師、リハビリセラピスト等と全員で共有しています」と、担当した安村看護師。今後の泊まり利用に向け、短時間から始めています。

これからも、法人は、乙訓地域の皆さまが安心して暮らし続けていただけるよう、できる限りのニーズ対応に努めてまいります。



京都新聞掲載 令和4年12月7日

## ハロウィンで地域交流 子どもたちが地域のカフェを来訪



小規模保育園 アトリエ  
保育・高齢複合施設 西山天王山  
(医療法人社団 千春会)

地域のカフェから「ハロウィンイベントをしますので、ぜひ、アトリエ保育園の園児さんも遊びに来て下さい」と連絡がありました。お誘いを受け、みんなでハロウィンの可愛い衣装をして、お出掛けしました。

途中、阪急西山天王山駅で電車を見て、大喜びの園児さんたち。そこから、一路カフェへ。店内ではハロウィンのお飾りと大きなかぼちゃがお出迎えです。魔女や魔法使いに衣装した店員さんが、子どもたちにメダルをかけてプレゼントして下さいました。地域の方々と一緒に楽しむ初めてのハロウィンイベントに園児さんたちは興味津々。



ハロウィンかぼちゃの前で、ハイポーズ



店員さんにメダルをかけてもらう園児たち

衣装した可愛い園児さんの姿に、地域の方も、みんなが笑顔になった優しい時間となりました。

電車に大喜びの子どもたち



子どもたちは いつも明るく生き活きと

笑顔で地域交流、元気に発表会

## みんな頑張った生活発表会！

きらら保育園  
保育・高齢複合施設 友岡  
(社会福祉法人 和楽会)

コロナウイルス感染対策で時間制限しつつ、今年は生活発表会を開催することができました。3歳児さんは、「友達と一緒に仲良く、楽しく」を目標に、手をつないで登場。鈴やタンバリン、カスタネットを小さな手で演奏し、立派にクリスマスソングを歌いました。4歳、5歳児さんは、絵本をベースに劇や歌を発表。針が痛いので友達に近づけない「ハリネズミ君」を主人公に、「みんなのために自分のできることを前向きにトライする大切さ」をテーマに取り組みました。



3歳児さんの合奏と歌

「劇あそび」に必要な舞台装置も毛糸のマフラーも、事前にみんなで立派に作り上げたのには驚きです。長いストーリーですが、歌に合わせて竹を跳ぶ「バンブーダンス」や楽器による効果音づくり、縄跳びや鉄棒などが盛り込まれ、大太鼓、小太鼓、メロディーベル、鉄琴、鈴、タンバリンなど、多くの楽器合奏と可愛い歌が華やかに繰り広げられました。

最後は一人ずつ「歌を頑張りました！」「ダンスを頑張りました！」と自分が頑張ったことを発表。立派に発表出来た子どもたちの姿に保護者の皆さんからも大きな拍手が送られました。



歳時記  
1

長岡京市 市制施行50周年記念式典にて 長岡京市より  
千春会グループ  
医療法人社団 千春会、社会福祉法人 和楽会に  
表彰状 授与

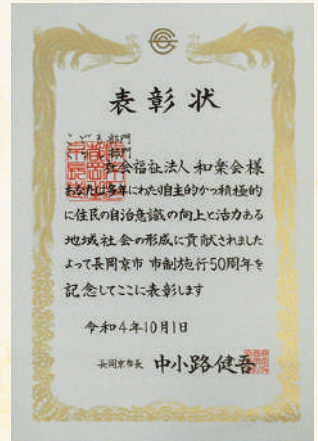
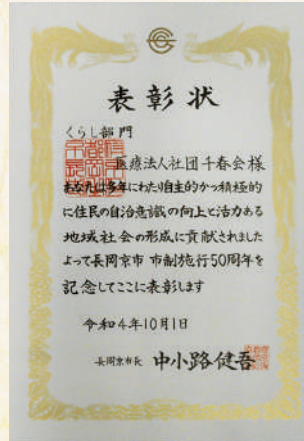


長岡京市が市制施行50周年を迎え、記念式典が盛大に開催され、千春会からは菊地三弥副理事長が出席いたしました。

医療法人社団 千春会は「くらし部門」にて、社会福祉法人 和楽会は「こども部門、くらし部門」として、それぞれ表彰状をいただきました。

医療法人社団 千春会として病院を構え、地域に貢献すべく、医療・介護、保育事業を展開し、近年はコロナ対応にも積極的に関わってまいりました。グループ法人の社会福祉法人 和楽会も保育・高齢複合施設 友岡を長岡京市に開設してより、千春会共々に皆さまの一助になるべく尽力しています。

これからも、地域の皆さまに必要とされる法人として、地域への貢献にしっかり取り組んでまいります。



(左)千春会と(右)和楽会のW授与

歳時記  
2

長岡京市市民活動サポートセンター  
市制50周年記念の  
紹介冊子制作に協力



市民活動サポートセンターによって、地域の課題に取り組んでいる市民団体を紹介する冊子制作がなされ、千春会も協力させていただきました。このセンターは、長岡京市から委託を受け、「市民の方々が協力し合って、自分たちの課題解決に取り組んでいる」そんな団体をサポートしています。

未来に向けての動きが活発な長岡京市。千春会は地域の課題を他人事にしない地道な活動を応援しています。

歳時記  
3

イルミネーション点灯に協力  
12月9日～1月9日まで

今年も JR 長岡京駅前から千春会病院前交差点を経て、美しいイルミネーションが点灯しています。さらに美しさを添えられればと、毎年、千春会も植栽点灯で協力しています。

夜の駅前通りは明るく、美しい光景となり、しばし癒されるこの期間です。



病院付近のイルミネーション

編集後記

明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。今号写真は、平安京遷都に際し、都の安泰と国の守護を願い創建された城南宮。桜と見まごう「しだれ梅」、紅鮮やかな「椿」の庭は、彩り映えて見事です。平安時代後期には、院政の拠点となり離宮が造営され、さらに崇められ、政治・文化の中心になったと伝えられます。古来より方位の災厄から無事である

よう、今も厄除祈願の人が絶えません。太陽と月と星を組み合わせた「三光の御神紋」は、昼夜の隔てなく遍く輝き渡る御神徳を象徴すると聞きます。冬にも明るい花々の如く、昼夜問わず地域へ貢献する千春会職員の献身的なその姿に、遍く輝く三光を重ね、未来を想う新春の日…。(弘)

表紙写真…元・乙訓医師会会長、監事歴任の七岡先生ご提供

患者さまの権利と義務

当院では、次に掲げる患者さまの権利を尊重します。

- 1 患者さまは誰でも、良質な医療と良質な看護を公平に受ける権利があります。
- 2 患者さまは、医療の内容について納得できるまで十分な説明を受ける権利があります(インフォームドコンセント)。
- 3 患者さまは、他の医療機関の医療者に意見を求める権利があります(セカンドオピニオン)。
- 4 患者さまは、医師から説明を受けた治療方法など自らの意思で自由に選択し決定する権利があります。
- 5 患者さまは、ご自分の診療録など診療情報の開示を求める権利があります。
- 6 患者さまは、個人の情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

また良質な医療と看護を公平に受けていただくために、患者さまに次の義務をお願いしております。

- 1 患者さまご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にご提供ください。
- 2 十分理解できるまで質問していただき、納得した上で治療をお受けください。
- 3 患者さまおよびご家族の方々は、他の患者さまの治療や職員による医療提供の支障にならないように協力する義務があります。



日本医療機能評価機構認定病院

千春会病院

〒617-0826 京都府長岡京市開田2丁目14-26  
TEL. (075)954-2175 FAX. (075)955-4615